

地域で学び、地域へ発信する力を育てる総合学習の取り組み

滋賀県大津市立唐崎小学校

たなか まこと
田中 誠

【実践の内容】

本実践は、総合的な学習の試行のため教科をクロスさせた大単元での取り組みである。

総合的な学習を進める中で、もっとも必要とされる、活動を通して「育むべき力」を明確にし、子どもたちの住む大津市瀬田の地域をベースとした2ヶ年実践の中、自然とのふれあい、人とのふれあい、社会とのふれあいと、子どもたちが自らの課題を解決する活動を通して、総合学習での学ぶ力(伝え合う力)は育っていった。

また、活動の中で、地域のよさを見つけるなど、地域への愛着も育ってきた。町中での自然の発見、小さな友達との心のふれあい等、教科学習を越えての学びが子どもたちを育ててきたのである。

また、地域で活動する中でいろいろな問題も見えてきた。そこで、「よりよい瀬田の町」にしたいと、子どもたちは自分の考えを地域に発信しようと試みた。このように本実践は、「地域で学び、地域に発信する力」を育てようと試みた総合学習での実践記録である。

【論文内容の紹介】

1 はじめに

教科をクロスさせた2ヶ年の総合学習の中で、子どもたちの学ぶ姿は変わっていった。その変容は、どのような活動で生まれたのかを、実践を通しての子どもの学びから考えた。

2 総合の学習を通して育てたい力

問題解決の学習や探究の活動を進める中で、子どもたちに学ぶ力を育てようと試みた。その力とは課題の解決に参加しようとする力で

あり、知識の伝達に加えて自らの課題を自分の手で解決していくという行動化を意図したものであった。そして、活動を子どもの学びとするために、

- ① 課題を追求する意欲・関心・態度
- ② 学ぶ力を生かす思考・判断
- ③ 自他の人々と学べる伝え合う力

を3つのねらいとして、各単元ごとに評価規準を設定して育てたい力を明確化した。

3 ふれあいをテーマに——実践の記録——

- ① 自然とのふれあい：「ミニ田んぼでお米を育てよう」の実践

バケツでの稲栽培の取り組みの中で生まれた問いを解決する中で、地域の農家の人との関わりが生まれたり、農薬の使用問題や田んぼの自然調査へと学びを広げていった。

- ② 人とのふれあい：「秘密基地を作って遊ぼう！」の実践

幼稚園年長児との遊びを通しての交流の中で、小さな子どもたちのねがいを受け止め、形にしようと、いっしょに秘密基地を作り出すという交流へ発展させていく。

- ③ 社会とのふれあい：「瀬田の町の再発見」の実践

地域のことを学校のみならずにも知ってもらおうと計画したウォークラリーの活動の中で見つけた<ゴミ、タバコのポイ捨て>等、町の問題点を、地域の人たちへ発信していく。

4 おわりに

1つの町を自然や人、社会と多面的にとらえていくことで、子どもたちは自分たちの住む瀬田の町を再発見していくことができた。

また、1つ1つの活動に対して「育みたい力=評価基準」を設定したことで、活動が見通しをもったものとなり、学びになったと考えられる。特に伝え合う力の育成が、活動を通して見つけた町の問題点を地域に発信することにつながった。